

空想傾性に影響を与える諸要因の検討（1）

— 感覚処理感受性との関連 —

○山崎 有望 松田 英子 松岡 和生
東洋大学大学院社会学研究科 東洋大学 岩手大学
キーワード：空想傾性, 感覚処理感受性

問題と目的

日常生活において空想へ広く深く没入する傾向を「空想傾性 (Fantasy Proneness)」という。空想傾性は催眠感受性研究の中で Wilson & Barber(1981)によって発見された個人特性である。また空想への深い没入以外の特徴として、極めてリアルで鮮明なイメージの想起、幼少期の鮮明な記憶、悪夢を含む鮮明な夢見、イメージによる身体反応、現実と空想の区別の困難さなどが挙げられる。このような特性を持つ人々は空想傾性者と呼ばれる。空想傾性はその広く深い意識変容をもたらす創造性や共感性と関連がある一方で、解離性体験や悪夢想起などの精神的病理との関係性も多数報告されている個人特性である。Wilson & Barber (1983)は空想傾性者たちの幼少期の特徴について報告しており、それらは主に（1）幼少期にネグレクトや虐待など望ましくない環境にあり、逃避するために空想を用いていた、（2）身近な大人から空想することを励行されるような環境にあったという2つの型に大別されることが明らかになっている。本研究では、これまでほとんど報告されていない空想傾性の先天的要因について明らかにするため、空想傾性と類似した様相を呈する個人特性である感受性の高さに注目した。

近年、感受性の高さ（感覚処理感受性 / Sensory - Processing Sensitivity, Aron & Aron, 1997）が注目を浴びている。感覚処理感受性とは、（1）情報の認知的処理の深さ、（2）過剰な刺激の受けやすさ、（3）感情反応の強さ及び共感力の高さ、（4）環境の機微への優れた察知能力という4つの要素によって決定される生得的な個人特性である（Aron, Aron, & Jagiellowicz, 2012）。この感覚処理感受性が高い人々は HSP（Highly Sensitive Person）と呼ばれ、悪夢を含む高い鮮明性を伴う夢見、身体的・感情的苦痛の感じやすさ、豊かな想像力及び共感力、想像上の遊び友達の存在、胎児記憶などといった空想傾性者と類似した主観的

体験や特徴が報告されることが多い。感覚処理感受性は空想傾性の生成に深く関与すると考えられる。本研究では空想傾性と感覚処理感受性の関連性について調べるため、日本の大学生を対象にWEB調査を実施した。

方法

調査対象者と手続き

2020年7月から8月にかけて、Google フォームを用いた Web 質問紙調査を行った。調査対象者は大学生、専門学校生の計 774 名（男性 344 名、女性 427 名、その他 3 名）であった。平均年齢は 19.57 歳 (SD=1.46) であった。ただし、質問紙によって回答者数が異なるため分析によって有効数は異なる。

倫理的配慮

調査時に調査内容、データの処理方法、プライバシーは守られること、調査協力は本人の自由意志に基づき、強制ではないことを書面および調査画面で教示し、調査を実施した。

調査内容

1. 空想傾性 Creative Experience Questionnaire 日本語版 (CEQ-J) (岡田・松岡・轟木, 2004) を用いた。空想傾性を測定する 25 項目について（1：当てはまらない～4：当てはまる）の4件法で回答を求めた。本尺度は岡田他 (2004) の主成分分析の結果、“異常な体験”“空想の鮮明性”“子どもの頃の体験”の3つの主成分が抽出されているが、本研究では、宗教的経験が日常生活の基盤にない多くの日本人にとって馴染みにくいと考えられる項目は尺度から除外し、計 24 項目の合計得点を分析に用いた。

2. 感覚処理感受性 Highly Sensitive Person Scale (Aron & Aron, 1997) 日本語版 (高橋, 2016) を用いる。本尺度は、“大きな音で不快に

なりやすいですか（低感覚閾）”“ビクッとしやすいですか（易興奮性）”“美術や音楽に深く感動しますか（美的感受性）”などの質問項目から構成される尺度である（27項目，7件法）。HSPSの因子構造については未だ十分に確定されておらず，現在も議論が交わされている。本研究ではHSPS-Jの合計得点を分析に用いた。

結果

記述統計量と相関分析

CEQ, HSP 間の相関を算出し，その結果を表1に示した。CEQ と HSP との間に正の相関がみられた ($r=.395$, $p<.01$)。

表1 CEQ, HSP 得点平均・標準偏差・相関

	平均	標準偏差	1. CEQ	2. HSP
1. CEQ	51.33	10.36	—	395**
2. HSP	125.57	18.93	395**	—

** $p<.01$

回帰分析

次に説明変数として HSP を選択し，目的変数として，CEQ を設定して，強制投入法による単回帰分析を行なった（表2）。その結果，修正済決定係数は 0.155 となり，当てはまりが悪い回帰式が得られた。

表2 単回帰分析結果

	HSP	R^2_{adj}
CEQ	$\beta. 395^{**}$.155**

注) ** $p<.01$

考察

本研究の目的は，空想傾性の生成に深く関与すると思われる感覚処理感受性との関連性について調べることであった。相関分析を行なった結果，CEQ と HSP との間に中程度の正の相関がみられたものの，単回帰分析の結果から HSP 単独では CEQ を予測することは難しいことが明らかになった。今後は，合計得点だけでなく尺度得点等を用いた詳細な分析や，他の変数を分析に取り入れた上で，全体的な関係について検討する必要があると思われる。

引用文献

- Aron, E. N., & Aron, A. (1997). Sensory Processing sensitivity and its relation to introversion and emotionality. *Journal of Personality and Social Psychology, 31*, 181-197.
- Aron, E. N., Aron, A., & Jagiellowicz, J. (2012). Sensory processing sensitivity: A review in the light of the evolution of biological responsivity. *Personality and Social Psychology Review, 16*, 262-282.
- 岡田斉・松岡和生・轟木知佳 (2004). 質問紙による空想傾向の測定 - Creative Experience Questionnaire 日本語版 (CEQ-J) の作成 - 人間科学, 26, 153-161.
- 高橋亜希. (2016). Highly Sensitive Person Scale 日本版 (HSPS-J19) の作成. 感情心理学研究, 23, (2), 68-77.
- Wilson, S.C., & Barber, T.X. (1981). Vivid fantasy and hallucinatory abilities in the life histories of excellent hypnotic subjects ("SOMNAMBLES"): preliminary report with female subjects. In E.Klinger (Ed.), *Imagery: concepts, results, and Applications*. Vol. II. New York & London: Plenum Press. (pp.133-149).
- Wilson, S.C., & Barber, T.X. (1983). The fantasy-prone personality: Implications for understanding imagery, hypnosis, and parapsychological phenomena. In A.A.sheikh (Ed.), *Imagery: Current theory, research, and application*. New York: John Wiley & Sons. (pp.340-387).

(YAMAZAKI Yumi, MATSUDA Eiko, and MATSUOKA Kazuo)